柳營秘書

浮世床

二下

第 七 號

全部 十冊

自 十五 至 十六 卷

一組 六冊

14
3157
42(7)

今の結びやう後へぶ。功成擬んごろう。今でこそ
でと別後へこいつ後へくよ。明ろくよろ別ろぐ夏がいろ。
冬ぶいろ〳〵どろ成ごろと色いく後へ夏へ汗がくよまろく
で成る。冬へ冬ぐつろくて夏がかぐもろ。夏の夜業へ蚊が
うろ〳〵。搔くつくと油を。ろ〳〵そんな物ぶ。濱世へそろ
〳〵わぐまろへこそく濱世ごろのへんろ人〳〵高上ふ
髮結といくろめへ擬成ごろう。人の機嫌ぶま
とろ後へさろうろやそん。人間でこそ大勢の客人間ろへもづろい

94
3157
42
(7)

人ぐあるろう十人ぐ十種類そまくくあらろく。其人の好る
るふ連くく品会せまといふりめス。女郎と同じ調子よ。武高賣へ
ぐ
別くく内服膏茅ぐいくのさ〜そまぐ出世ぐ〜おろア髪ぐ上るぐ
ろ
こくく洗面しくくのちもア待と来やア〜移へ「世ろぐ好とろ。ナア
ぐ
「ぐんぐ好とろ〜十二男紙いふんろ〜「市ニヨまとぐくのろぐ毛数ぐ
うくぐらもアいろ移へぜ「先ア〜何の業でもい赤ぎんつぐそまぐ。
いろと年ぐ老ちもア出来移へ「五十銭紙ちもちもぐ出いる
「五十六十ろうくくあるろ五銭しくくあるもと出来ぎ移へ奴ぐナ

「ぐそ〜ア何商賣でも光明の悪いのさ〜大概ろまとくんぐろう
てんぐぐ対ぎしまく紙まろぐいス「町内のロろでも床でも代り
ろるもとアア今貝いくトいふぜの「場面ぐやア別てさ床でもさう
ぐろるぐ。そまぐろう体の型貝いぐ。ぐるるぐ重ろくやんぐ。ロまさぐる。
角代りろ結せ移へめよ。ろまとろ待ぐ遠ぐぐ金ぐ
悪いろう。そころちぐ〜まろうの髪結の上ぐる奴ぐ折角別漆
ぐとおりのぐ。髪盥ろまぐ紙しくくス化町へ行くめよ「中央猪
いのぐあるろまぐ。一ツ町内紙ひさしくくロろ移へ暖簾ぐろ門ぐ立て

男もぎを蛸助
図のごとく「ねぎん。そもそもつけくを以整えるを如才移りよ。場面
まを五六町移り。床の二ケ所頼りく居事子紙ぜ〜〜く亜くこ。
こ紙へ移へ。其上を以床へ自身よりを紙ありて敷だろう。そもそ
ぶらり金ぐわくとうるつかア「松おりうと頼りうことといふと虚
ぶらうス「他の名おすく肉絶えてんぐ居るのス女の
るを敷だうもう五分を遠移へ「一用の上ぶ積そうう
大きうるうらう「松そもぶらり床の立流うる紙又移へ
「さうさちらはけ麦名ぶ金紙猫猫碑碟鴉鴉等此言

郷土ようすをイヤスもうらぶ肚い頃の髪結屋へきく移へ
ち補ようぶ級ぐあへく。きうさうもうこ小盗さ表の僧ナメ助
度治の紋面ぶ魚乗ぶ仙九ヨ仙の字十ぶ⊕さ。史紙二ケ兄
鬱ようきく。丹と立酒「雲ようぐ別くう移色さりめよ其陸子ま
類〜このぶ。蛇接ぶ七正平紋と出こまい中へ立花の根ヨ接紙雲
画ようく。落墨紙入もてこのぶ縫箔屋の陸子さて又表具屋の
陸子へ陽の宝紙倫眼ぶ晩居る達麻さ。今をわちへ又ケるう。
昔もど沢山へうへ床の陸子を助度治の外ヨ役者の役紙ぶうへ。

東坂本 市村亀蔵の史殺 市村羽左衛門 濱川元目 王子権現 回 江戸一面さ。其中ゑへ
美人絵の武者や役者。おりひいさるぐの見立物ゑぐぐ有くまと。
新色い丹ゑ山梔ゑ藍紙ゑぐ紙用おくぐどくさの色い障子へ画く
くく。墨色の外へ藍ぐゆくこと出とやとく。目の中紙青く彩るやく。
丹の粉いこびつまつく。山梔ゑみとと美くこと別くくまくて猪牙の
煙ぐきちくく拭くく。イヤハヤ又てくこと物ぐやく移く。近年ゑ飯
ちくゑ遣ゑ鍋ゑ落てゑ墨ゑとくくと油障子看板ゑと提灯ゑおの
く流ゑくゑと。役者の仮面ゑ浮世絵師のおゑ子ぐ画くやく。

うゑ且ぐ極彩色の障子ゑくくのおりひつまぐ出ゑる。紙ゑ深ゑ
暖簾ゑ廉ゑまとゆくゑ文字や梔梅ぐおくぐ。今ぐくいろくの
人物絵彩色ゑ画せて。色ゑ付ゑ深彼せくゑ。ゑ人ゑ器用ゑ
ゑりゑくく。ゑゑ痒い更色のぐく極さ子。紙さ人出ゑ自ゑ抗ゑる
世の中。トい更鳥屋のちぐへへ晴助さん。何紙ゑぐ紙いく陽の縁ゑて
ゆくぐ。おゑへひゑゑ美嚬屋ゑぐへゑんゑやさ。おくぐゑ世の中
ぐくいくゑとへ。おゑへ入ゑちくくゑ。遅いく。青首ぐ一羽拾ゑく。
ゑ西ゑ雲ゑぐ雲ゑ拾へゑへおいゑゑいゑゑゑ人ゑぐ拾ゑ雲ゑ

下けうん。寝うまうまとと狸け。やうこんこんざ。ト手ぬぐいをくくり引上三味線をくらべ
うぐいすのなかいたるに。
げんまのときはなしの「サそこでうかうかしざいませんうち。たんこ一羽うを
こんれ色鼓うち三芸者級者声色立役い中四〜三陣五ぶ。国
十ろ和助。ととんさんぞう生来ません中二階の大和屋お紀乃
国屋。三河屋の伊勢屋。八百屋の方屋お好屋。何でも生来
ます五人共私の声色を真ぶつうひまと雪外ま類まい仮変
ぶるいまづ出鴨我り。あぶらくき張ぶろ。芝ーくて歯ふつまど
いとどー後ず月生の味ぶつまを。北州の千年を嘶嘶の一時盧生ぶ夢医

を五十年。一時の栄花まい千とも我沢る。千金一方金の方まと
るるるべに思ぶ分別とぶぶらうが思ぶ僅ま風おの乃塵
ちぶや。四百や五百ようるんうるるおつうひうるる。二年ぶ一
分ぶ銀ぶ宅へをちとてうるる。まとふ面地ぶ般若花ぶ地。
入江千鍬あまとぶ出私千鍬。まぶ出なをうんを方ぶあうで
うるるぬ。さうるるぶ立方さうるる風味合をいうくく代ぶ八百。
一日あぶうく高山とぶうーぶうまとを代とうるるあうぶ出方うま
うぶと。元朝ようう大世四まぶくぶまるるとうりぶ実庄。

面が看板お子さまがくまでくまでどんぶり。今日へ行て明日は山の手へ来さるべくやうと胡乱な者どもが寄り遠と賢板ひがるんイヤ。ろんめさうぐるん。ろぶいふいろうぐまいとおろしあるまいものでとるい若さまるのおいさま。ふ通紀しまいまくろぶどう紙様ちやうまどる。紙物紙あいとやく商ふ者一人をどごろぬ。雁を炙を食く。ふ紙ぐ真味がまるぬろ狂まるろ。山寺の鐘ろくいろとのどる。法師まろく櫨本紙あてざるぐ其音色ぐまるをぬ酒ぐ乃

下の巻の下おこしぐ物文章まれつ紙

門ろ三年三月お立ぬ遠ぐくを酔ぬ道理いぐを。めあぐとまるまくく。実ろ我ぐ口上ろ遠ぐまぐ風味合ろまを。ありくまりまるまをとろぐ人今日ゆくろぎりまをぬ毎朝山ぬまくく仕被為仕りまをとろ鳥屋ちやぐ出。アくぐ離くるんろ。ちくくさんお茶ぐをい湯でをとおくまを。お茶屋ぐまるをぬ。おるぐくぐさんまるへ生くぐ新紙ろ人ぐくちやぐ出ぐどん。えのくるどるくまぐ多く嘴るのうへ。ほくう先へまるへくるへ。香奥師のいひぐさ紙ろく出くぐぬへ。おまくをとおまくぐ感心を

感心ざ「猿蓑や大道雲のでんぐり返」
出来後くるこ「どうしてく。おめくさるは出来後が出来るりん
「出来こ三ぶざ「まら後人「上ひょうろくて人位る働ざ
「コレもをまけや「いくらる「二百ス「そんる三百やるる紙
そちゃ網ら後。おやうぐんいろどふ元ぞ六百ぞ。
金りぐら五十後紙しと五百五十よちくやらう。
五ういやまの千本ざ「ぐうてうぱっむちさきち南天
八ふぶりうト。

刀と研ぐちんるせると　山面倒ぐ
おこのこやしまと「ぐん　おくこさんの出ぶるうう面逆兼知せぶ
るるる人世待ん「「コレこ世僅る凹紙うるる。田舎ぶ紙有ぐ
さうる。と後人様ぐぜ「おめ人の見うう後人「口の者る綱
市ぐ「おめ人る似ることさ「ホイ一言ぜ後人先ぐたぐ「今は小
後ぐうるこ凹人やうと流ぶぐ
ぐ替女の凹ぐの「ぐうさ「とる凹ぐナア。威勢ぐ後人せ「あの
凹ん人のうふの人皆ととうんぐの。おとぐ越後者うう恵福の

紛らす式知居る「そのうへおとつ教くくん移く「色角あんるを
と見さぐるまア「今唄うくく文句へ全体きいりのさ江戸の者と
不残の文句をきくまさる。所く切抜くくうたるのさ。賢女の
くふ越後節の裏面目ことをでざんざ教くやらうぐいく
らくとまと「さくいと式いくぜア一くさり聽てうられまさ
「きく移へ所へ相傷ぶ去ると移へナ
○「千鳥月。荒物町のウ傑屋の娘。姉と妹式るくくんさて。
姉へまくかいい葬のウ花妹今ぶく白菜のウ花姉やウ

くとうまいい立頭掛く。一ム岩松お地
荒さアまよ。二ム彩保の白山さアまよ。三ム隠坂の金毘
羅さアまよ。四ム住吉の吉光寺さアまよ。五ム吉天
の若宮さアまよ。六ム六角の祝さアまよ。七ム七尾の
天神さアまよ。八ム八幡の八幡さアまよ。九ム熊野の権
現さアまよ。十で所の色神さアまよ。掛くこ立教くるを
けるまぶおのの川へ弟を投捨く。三十三尋の大蛇とくう
くく。水式流くくくりくと巻きさアまやんきエ。

「実ら爺さん。とびけら婆さん小桶で茶ア呑め姑ぐ
我を折る〳〵ぐ〳〵雑ものさ
〳〵とびけら婆さん小桶で茶ア呑めといふまど。其前後の
ことば推を去く後。今は小汚の男らこのことよ
○〳〵私の船頭は晒三尺黄ろ。ヒーグ羽ろふや晒でもよう
いが。蓋き羽ろ也や晒ちやろ。何と深よく深座よ聽
ひべ。一ろ橋二ろきつゥだ。三ろさぐり巻四ろ獅子牡
丹五ッわ山の千本桜。六ッむろさき。七ッ南天八ッ山桜
九ッ小梅。十で後桜の好の桜よ深ぐ。ぐりん
ふさろうとこ言ぐ。さ様るやんまこ。
〳〵四ろ時ろと當時くの風俗紙ちろよう。又後の人の
屋ろもうろ物ざろう。ちまこ一冊ろ出ろとくおっぐ。ぐ
いっつあるだんとこんとこどくろうろ宮ろうトーみ
せろ〳〵宮ろうクタ一ッ云くらん後人もこの出ろ先〳〵そんろう
タッタ一ッ物ろ陰紙教やう
○〳〵ちろが陰ぢやろい聲とうりく。石臼風を切る。桶乃箍

掛る。人がたのわらべ大こをとるやうさる。桶屋をとるやうさる。左官をとるやうさる。木挽をとるやうさる。小さい内うち餌刺ゞ好きゞく。丼の投げこゝ緒の美鞋。粘竿お稲よさゞ粘竿ゆふね下乃方うち二丁目の。上の方うち三丁目の。合せて五丁目の真中さ頃ゞ。榎大木よ小鳥が一羽。おらう刺こくこいつよと粘竿九尋。粘竿縄ゝ小ゑゝ高う。そこで小ゑゞ嘘爆竹るやうさる。おまへゑる刺さえんろ。こゝや百合ゑるのゑるさえれまいぶへこゝやうけれよどと。山猿あるうち入うゞ入まく

刺しやとやんとと。

ヘアトのうろ。一ツ。竹さ山のやくく盃三ゞけ。橋さゞ。山外にまゞ

○こゝとおうろさんの頃うちゞあくいろくある。一冊が僅八銭。上下ばうさん小洞十二銭とおまふ入まる。私ゞ乃うくよ木のまゝ。何方ゞ。お声のよゝお方ゞお頃ひうさ

まゞひとゝ下のお屋ゞ。山木とあくゞくひまとるうちふ

おりとあうさの。紙代板ゞ代ゞ借小洞ハ銭「イヤあきれこゞゞ。

人紙茶くと男ゞゞ「茶くと若ゞ孝經周宗明義章貴一

うぞ。ちんふえんのお師匠さんだやア移。早くいづく馬鹿教る
のぐ教る馬鹿をあるスベこんちん博学大才肉食妻帯ぐ本
乃るぐぐ孔明提灯弐持て楠草履とる和せをいのぐよ。ヲヤ
孔明といへば唐土の上よ通俗三国志。コレく学弐いづ新ぐさと
呉雲のるぐ。ハア平仮字分字ーるぐ。今でい真片カナの
本も字本よるるとくらい。おちるづきの字よるんくいく口の止ぐ移へ。ぺくぺく
と泄紙へ仮字るるぐ。そねるく。ちぐるるくらるーるうき

めいせまぐスコウし本へ紙ぐ壺ぼ土ぐさんぐ新くぐ行くる
ちぐとるう。土ぐるう。書ぼるるぐるぐのう。何弐いふる唐人の字云だ弐
いって云居るぐ。あきぐやア語弐とる志移人も同じるるぐ。ドレ
く土ぐぐ本るう液とつけくく完とあげくやらうへ。
貸本屋くら借るのぐホイお院佛ちんあま計
の瘡治異るを丸の字。どういるイせうチりくのチりへ寿
遠ぐいづを本寿の法ぢやア移へまんざら捨る男で
るいぐあんまり拾る男で移へ。阿娜る潮来で迷る

せる。トテテテテ。ア。ととととと　ととととと　ととととん　ととととん。ア。うう〜〜。孔明七星壇ニ風を祈る。ト本をよむ　けうけうてたり　デモ医者のゆうに風式をする

ことを知ス。ア。馬麻ア云ひ。そもそもぐと本式ニ漢ぐぐ不思議ぐ〜漢ぐぐんせう。曹操横ぐ槊を賦を待をスへ仕

のうぐ〜ちをうをうをうう〜〜ぐ。ア。ア。ア

〻先陸のウ。陳と見て陳と見イ。やうイやうイ「コウ何紙
いふ。やうこそ紙いふめへぜ「そまごゑ」ゆきくあるゆめ紙へ先
うう續ゆ「くうう「大意ゆ紙いふのウ。先うう續ゆまゆい
又まうう人ゆ遇ゆまゆ。陳ゆ又「陳紙見陳紙見孟牛房
「東西ゆ。陳紙又「陳ゆうう。大概推量て續むりのゆ
「とう書く推量ゆ出ゆるゆ。「利ゆうういふゆ。おまゆ関係ゆ
推量ゆゆと字ゆ玄他と仮字ゆふゆくあゆ。馬ゆ乗

てトいふうう「おゆゆ馬士といふ字ゆううとおゆ人ゆ先陸の仮字
ゆ付居ゆ。向ゆゆ荒神ゆゆあゆうう推量ゆうゆまゆいく
ん。ゆ。其後イ「コヒ「ゆうう。韋駄天ゆ自ら馬ゆ乗て推量ゆく
○其後ハ出ゆふかう不ヤん「ヨヤくゆう遠ゆゆ後ゆ
「でゆゆ大紙ゆ「大紙ゆゆゆまゆおゆゆ又一合又
ゆゆ。大紙一被ゆ一被馬庫ゆい「コウ大紙一被ゆゆ。大きゆ紙
「被といふゆ。ゆゆ紙推量ゆ後ナ「コウトトゆ。ゆ中ゆゆ
中「舌切雀ゆゆ後ゆ。ゆ中央イ字ゆ帥帥のウ字イ。

出イてるウ。旗とり立てたべ。こちらの方ぐ左右ん裕徑。ウエニヤ水さアいぐ〜水塞ト。ウ〜左右〜。こゝるア水塞ト。そゝぶて。そゝぶて。傍て。怒り怒り。代〜亜角クアらア。「ハリヤ〜又こづてぐ唐人のうせるやうぐらけるお姐さるぐらう。全体こづてイいふのの昆布のうねぐふよ。ちめへさちっかきぐ〜ぐさとぐ紙ぐうぐ〜ちるも人。お月こいはうぐ仏あと庭の妻花さんの性でのぐるさうぐうるいこいがこの芝居性さきき中夢のもやぐぐ。こづてうあぐ〜んうこあぐ〜ん〜トいふのよ。ハテナあのおやぐぐ食ひまこと。ぜこのぜこづてうあぐんうぐちう。但一巻ぐ云いう〜水う〜あぐ〜ん〜ウトいふのっといろく考くあると。ライこづてうこぐんせと笑ふ人ぐあるうい。のぐいろく〜えて〜ウ昆布紙をつる結ぐのぐ。効りく〜と嚙つぎと中よ山椒ぐ這入くあるうう。そまて〜ウ傍の人よ山椒ぐ這入くあるうと云さ〜ウ山椒ぐ何ぐ這入ぐい。ぐ戸の山椒ぐ中よ山椒の入くあるのぐやとぐぐ〜ウ〜。這入るうこいうく〜ぐ。こちらの山椒ハ昆ぐ昆布のうこいうこん。昆布の中ぐ言と言と言と言ぐ言ぐ言ぐ

刀とさらう。関く往さらさうの[illegible]おくさんようんどおいーい
掛がどどりまとうう掛りけのお客よ来りまと「アイト
門武士るとあつやアこん「ようとい。そ「くーき。ぶらさアイ「おーい。引ちぐべて
包を斧おいる梯吉「ぜえさん遣いよりる「吉ぐどうぐどナニとさぴ三ヤ
いる殺。先刻梯八ぐ来くぐ淫のを買殺。まぐいら殺。ちーー
何へ殺る。間歯へ殺る「梯吉「ありやまと「百歯でを買ぐい梯吉糸の内より
ゆーさ又まるさとと一向ぐぴ拾る梯ぐつるとるめぴいくとぐ百五十ろ
梯吉「二百さ「二百とさまーい「吉「ナゼ「五十安いゼ「二百五十の

あんて
ろ歯とちっけぐ遣へア。持往ろとく。英永よせうピ年ぶい又つろ
ろと往へゆうる梯を買とるるろ。おひぐぐ「ハイくありがと
仕合せ「えんとうぐよ「おめくかやんとうぐぴんろ虎。「義経ちまい
「アイさあうるろ。「出刃引ぐぐ「ちゃ引ぐぐ「おこそうぐぐりまと「アイおぴ
まぐぐぶいやせん「ハイく。さあうるろ又ぴ買る。「ちゃりへ池の垣ぐ
てまろ
ゆきぬ▲又一人ちろりのまりの引屋てまろ
まーぐぴきげんろーう見へ「トぐろ見へ「おろろくずおろぐげ。
ろの三ハ金を渡を泥河を。「様ろとお乳の人へおきぐの

河岸「アイ恒さ帝やせう」「ハイく。毎度面倒うぞうお願ひ
やまをいう。モシうまうとの渡吉さん」「おうんそうさいまする
ぞ」「ハテとまつることろうぞう。そん
うら惜うてうしやの紙をぞくまわくまをせう。おやるまろうと
あ上くおうんうさいます」「又おうえうさうどんその作さ
ぞ」「幕支をえうてう」「ハイ」「ちと濃ぞう。イヤ出る糸ぐまをせう
ぞ」「ちいろう。一ぷく呑程ね」「今貝はまぐ山のさ後きあ
ううまをん。モシちをおいうさいます。大分振さ。霜枯の景氣

ちぞんぞぶいますせん」「とうちう書枯ぐ冷かうまんうこ」「ハイ
さうう」「肉くうくうくうんう」「ハイく」「ト先ず何人ぐうう作者
おうくよ性ぐうぐ」「ちと」「ぐ」「今度の肉証ぐ傷者の」「あん
まう悪ぐひどひうう」「ぐまうイく傷む」「音のう移ぐう
うとねうく食ぐのう」「食ぐとうくうんぐ食ぐとううさ
ぞんんせ」「新見世のう打蕎麦ぐ生ぐとう」「横町の木戸際う養ぐ
押付ぐう」「ぐとうんぐ」「又負ぐうとううく」「ぐぐうう
うぐぐう」「おうくとうぐうう」「ぐ勝ぐ者ぐ受ぐ

のろ〳〵そんな法がある。めら貧乏者が騎るのス〳〵ッそそぢゃ
些搗まが悪い〳〵ろくな豆腐出てこない。ナニリ蛸ゑ騎せるが
年の毒よ〳〵と押がおりて。サア来ッ。三番だくひろ〳〵折詰
〳〵はが〳〵二番ナ。ひの三番ナ搗頂〳〵〳〵待さう。
豆腐ひいくくんやさ。ト考くやるノ。五二。九。十。〳〵
〳〵十といふ番がある。ものと十い折詰法の地ざ〳〵りヤ
まづ〳〵三年枝八年。おらア法よかまい詰〳〵ろ十ッ〳〵行で
も数の合くあるくさめ弧搗まとる。其搗る不自由る番

ろ〳〵不ぶ〳〵ケヨッそんろ〳〵ッ。ッて。ッ〳〵の怒さまろこう
ろ弧。サアとと〳〵ろ〳〵ぶ。ろ。一。六。七。三。五。〳〵ト四。四〳〵ト
あろ弧三〳〵ろく九。五。一。〳〵ろ〳〵ろ〳〵ま〳〵些待〳〵ろ。もめ人
宮ろ搗ろの。今表ぶ往貧ぶの。番先ぶ悪いるぢ。
芋売ぶ見弧撞くと〳〵ッ〳〵ろ〳〵番道
ぶ一弧ろひろ伊ぢ私ぶ搗ま〳〵て蕎麦弧大者ろ
まを。ろふまのろ世ッ。ん〳〵ぶろ〳〵三ぶ食ろそば。
ま。ろ。ぶ。ろ。ろ。ろ

きちうり大丈夫四七十。八十。二十。三十。五寸。四寸。
六寸。ヨウヤ。ヨウヤ。ヨウヤ。一上。ごうごう。ソレつん〳〵一本を。ちらぢふ
負くと〳〵〳〵こまこ出す。ぐぐらまと。サアく蕎麦屋へ
ちやく。逃くまいコレ。ふ。借。迫。茶。弘。食。る。そ。く。ぢを。さぐふ
拂ちくまいよ。ちこ。こちのこい。好。ごろ。きりく。風を
拵。折て。ぢく。まい。ちこ。チョツいまく〳〵ぼく〳〵。蕎麦屋とる
ぢ。ぢ。ぢ。ふ。更。ぢ。ぢ。ぢ

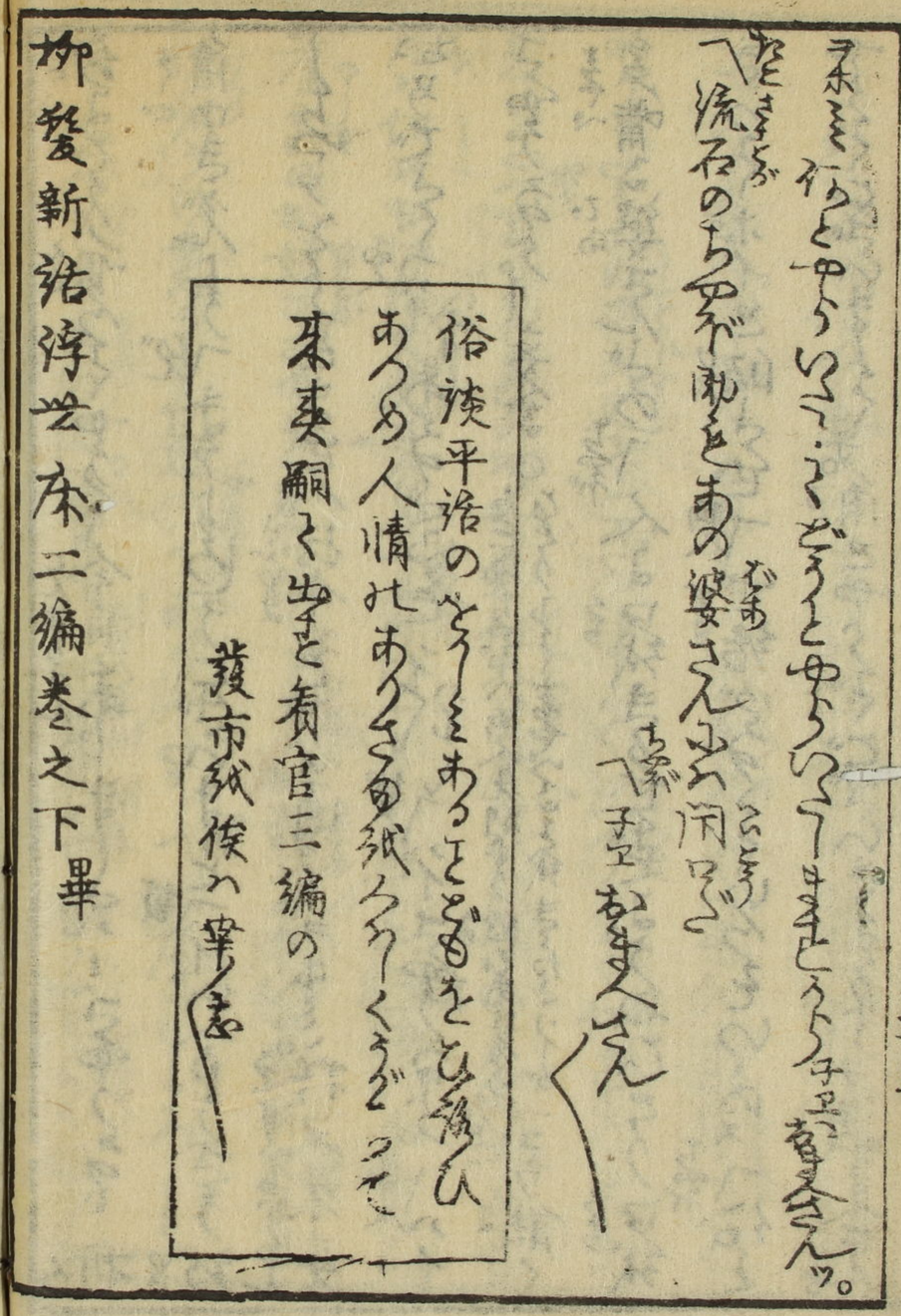
番手ぇまぁまぁさん。いつりとぉーまぁ。関ぇまとろうとけおぇを
さぶ強うごぜいますとぉまぁまぁさん。まだでもこおとさのおあろう
めごぜいますせんぐ行とんのおうまもーぇ。残ますまと宿でもと一す
おうえ弁ふまうとぐんてごぜいますーぇぶ。兄ぇとえおまぁさん子。
お座りきさるの西甲ぐ浦ぇ家まうぇーぇぇ。イヨサまとぇくる
おまぁさん子。こなぇくのお版さん子ろとぇ幾ぇまぇふぇぐさい
ません程ぐごぜいますのさ子。そまぇぐごぜいますとぇ子ぇ
おまぁさん。家内中ぐてんぇ義ぇぇーまとと子。松るごぜを

ぇとぇとぇまぇとぇ子。ろうお座の方のおるつぇひ幾ぇと
て子。おまぁさん。行漫ぇまる間もこぶいますせんイヨ宮ぇ残ぇ
あうぐるるるごぜいますとけまどぇ。若外まとぇとう主を
おまぁさん手。わぇぇとこてぇごぜいますと。夜おろのごを子おまぁさん。
松ぐさうやとうのさ。山やうふいうこぐーいあうがぇいうのぐぶ。
正月物幾拾ぇうを陽ぐるー。パテとまるぇうのごと子おまぁさん。
チョッいうさ。何を異ぐ不自由というのでいるを。洗濯物乃仕立ぐ宮
ホ金ごぇ他西形の宮幾勝ますぐ異ぐまぇくと松ぐやーは。

こゝとびこ　おまへさん。主がやかさんもまゝこのハナこぶかまろ
しやるよ。おまへらく　乗く　少し及びぬうとこ。さんさと　長るゞよいと
おりやかさんもまゝこのさそこぶこぶこぶこぶこ　おまへさん。洗濯ばいこゝ
ぶこぶこぶこぶこ

めでとうるやうや角やでまあまあさんまあ〳〵寄の休まるやが
ごぶいませんヲヤわんよ女さんへおなを者がごぶいまもろへハイ
あうがとう。五徳丈夫ごぶいますく。只今まだ何のことやま
せるのさ〳〵やく〳〵そもそもわんよお仕合るるでごぶいますと子さも
元へ何へおけ此丈夫さるが一番けっこうあてごぶいますよ。
お屋敷のお妹様さるをおさく〳〵しうお物うのきいますと。
お伝様うけもろうます世話〳〵ハイあうがとう〳〵お序ようもろう
あうがとうさやさいは。おもく一すまあうがとうあう

あるだろう思うくやうく今日来ましたパーこさやうこの。祈り
角ゆきぐんよう〳〵まあとうろうごぶいますと〳〵ハイ〳〵いへのうさう祝
しちゃうあとうとまません只今をとヤス通りチヨキ。様又来変
おりでく〳〵ハイ。あうがとうを。ハイ〳〵ハイ〳〵ハイさやうるうう。〳〵ハイ
さやうるうう。ト立る。○たこ所ちゃ八西人先刻より彼ぶおきる人のたこ
ようるうう嘴る婆さんぶの〳〵人よ只紙きろせぶどう。ねひとう只紙
きいく〳〵ポイと吸させ〳〵世話ぶうるくいうそいのス〳〵仕ゆと
やうぐごぶいまく〳〵。角とやうぐごぶいまとろう子立おまえさん。



俗談平語のべつてあることどもをとり集め
あつめ人情れあつさ面白くつくりなせる
来爽嗣く出と有官三編の
菱市紙俟ハ発売

柳髮新話浮世床二編巻之下畢